

平成28年度学校評価結果

平成29年3月
佐賀大学教育学部附属幼稚園

1. 本園の教育目標

身近な環境に自らかかわり，遊び創りだす力を育てる
・健康な心と体を育む ・豊かな感性や探究心を育む ・主体性や創造性を育む

2. 平成28年度 本園 重点目標

保育・研究・研修

- ・今年度から新しい研究テーマ『自然』に支えられた保育」で研究を始める。研究方法も含めて、みんなで話し合いながら進めていく。
- ・学期ごとの学年別公開保育研究会・エピソード記述・保育マップ・保育マップ型記録・書籍の読み合わせ・カンファレンス・ポートフォリオを続け、他園の保育者・保護者・附属小学校などへ本園の保育を発信し続ける。
- ・全教員が、園内研修に引き続き参加すると共に、園外研修にも積極的に参加し、引き続き園全体の職員の資質向上をめざす。

安全管理

- ・引き続き、毎月、遊具・園舎等の安全点検を行う。日常の保育の中での気づきも出し合い、みんなで共有して、改善する。
- ・本園の安全に対する考え方を保護者に丁寧に説明する。

新体制

- ・今年度から学部改組に伴い、新体制となる。園長が統括長兼務となり、今までと違う。話し合いながら進めていく。報告・連絡・相談を忘れない。
- ・平成30年度以降の体制について、学部と連携を取り、必要なことは要望していく。

大学・他附属との連携

- ・午前中保育の日に、交替で附小の授業を参観に行き、卒園生の小学校での様子を見、幼小連携につなげる。
- ・九附連幼稚園部会を今年、佐賀で開催する。学びの多い、充実した会になるように、みんなで協力する。

エコアクション

- ・子ども達に対しては、将来自然を大切に出来るよう五感を通して自然に触れる体験ができる場をたくさん用意する。職員・保護者は、電気・水・紙の使用量を極力減らし、その後ろ姿を子ども達に見せる。

3. 評価方法・流れ

評価計画表 佐賀大学教育学部附属幼稚園 2016.4.1

	～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
評価の流れ	目標検討	本年度重点目標設定・保護者に周知										自己評価をして結果を学校評議員会に報告し、それを受けて学校評価とする	公表・次年度目標に向けて検討	目標設定
自己評価												↑ 2回の保護者アンケート結果などを元に、自己評価をする	副園長だよりにて保護者に対して、保護者結果を報告する。学部長にも報告し、ホームページにも掲載する	
保護者アンケート												↑ 第2回アンケート集計して、職員で話し合う	副園長だよりにて、保護者結果を報告する	
学校評議員会														
個人目標申告書・活動実績報告書		入園式案内用紙配布	第1回学校評議員会（組み合わせ）		第1回アンケート配布・回収	第1回自己評価記入・必要があれば面談		運動会案内			くさぶえ送付	くさぶえ送付	第1回学校評議員会開催 中園式案内	第2回自己評価記入 結果をまとめて学部長に提出

4. 評価項目の達成及び取組状況

よくできている A（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 90 % 以上）

できている B（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 80 % -89 %）

あまりできていない C（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 70 % -79 %）

できていない D（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 70 % 未満）

評価項目		結果		理由
		保護者	自己評価	
園の管理・運営・保育について				
保育・研究・研修				
1	重点目標 今年度から新しい研究テーマ「『自然』に支えられた保育」で研究を始める。研究方法も含めて、みんなで話し合いながら進めていく。		A	毎年、公園に落ち葉を拾いに行つて落ち葉場を作って落ち葉で遊び、その落ち葉で園庭で栽培したさつまいもを焼き芋にしているが、今年のかまどに火をおこして、さつまいもやジャガイモを蒸かした。田植えをしたり、カリン漬けを作ったり、自然を意識した活動を増やしてみた。
2	重点目標 学期ごとの学年別公開保育研究会・エピソード記述・保育マップ・保育マップ型記録・書籍の読み合わせ・カンファレンス・ポートフォリオを続け、他園の保育者・保護者・附属小学校などへ本園の保育を発信し続ける。		A	1学期に5歳児保育研究会・2学期に4歳児保育研究会を行った。3学期の3歳児保育研究会も3年ぶりに行うことができた。エピソード記述・保育マップ・保育マップ型記録・書籍の読み合わせ・カンファレンス・ポートフォリオは継続し、発信することができている。 2/18の公開保育研究会も188名の参加者を得て行うことができた。 平成24年度に発刊した「遊び集」も引き続き販売しており、今年度第4版の印刷をした。
3	重点目標 全教員が、園内研修に引き続き参加すると共に、園外研修にも積極的に参加し、引き続き園全体の職員の資質向上をめざす。		A	引き続き、園内研究会は全教員で行った。芦刈幼稚園・巖木幼稚園・長崎大附属幼稚園の公開保育に参加した。
4	保護者アンケート 園の先生は、子どもをよく理解している。	A	A	気になる園児に対してカンファレンスを行ったりエピソード記述を描いてきた。教員同士気軽に話

				ができる雰囲気である。
5	保護者アンケート 園の先生は必要なところでちゃんと子どもたちを援助していると感じる。	A	A	おんぶ・抱っこをはじめ、しっかり話を聞いて、園児の心を受け止めようとしている。
6	保護者アンケート 園の先生達はよく勉強していると感じる。	A	A	今年度は「むすんでみよう子どもと自然」「ちゃんと泣ける子に育てよう」の2冊の書籍を全員で読んで学んだことを話し合った。いろんな研修会や講演会にも参加している。
安全管理				
7	重点目標 引き続き、毎月、遊具・園舎等の安全点検を行う。日常の保育の中での気づきも出し合い、みんなで共有して、改善する。		A	毎月、安全点検を行い、気になる所は用務員に頼んで修理してもらったり、廃棄したりしている。業者点検で、園庭ののぼり棒が古くなっていて危険だと判断された。後援会が新しいのぼり棒を寄付してくださった。
8	保護者アンケート 園内の安全対策（施設・遊具・不審者対策など）は、十分である。	A	A	一日入園の日に遊具説明会を開いたり、保護者アンケートに書かれた安全に関する事項は、改善できることは改善し、園の方針を1つ1つ説明している。
新体制				
9	重点目標 今年度から学部改組に伴い、新体制となる。園長が統括長兼務となり、今までと違う。話し合いながら進めていく。報告・連絡・相談を忘れない。		A	園長が統括長兼務となり、今までのように園においでいただけなくなったが、電話やメール等で報告・連絡・相談してきた。
10	重点目標 平成30年度以降の体制について、学部と連携を取り、必要なことは要望していく。		A	要望がどうやら伝わっていなかったようなので、再度要望している。全附連の幼稚園にアンケートをとって他園の状況を調べている。
保護者・子育て支援				
11	保護者アンケート 幼稚園は、保護者に園の考え方や保育方針をわかりやすく伝えている。	A	A	入園説明会・保護者講座・クラスPTA・子育て談話室等で説明している。
12	保護者アンケート 幼稚園からのお便りや連絡はわかりやすい。	A	A	引き続き、クラスだより・副園長だより・ほけんたよりを発行し

				ている。また、学校情報携帯メール「はなまる連絡帳」を使って、メール連絡を行った。しかし、年長児の山登りの連絡が不足していたので、次年度からは、もっとこまめに連絡をする。
13	保護者アンケート 園行事や保育参加などは、保護者が参加しやすいように工夫されている。	A	A	誕生会・子育て談話室は弟妹が遊ぶ場所を作っている。じゅうたんを敷き、おもちゃを用意している。また附属小学校と行事がだぶらないようにしている。
14	保護者アンケート 個人面談や降園時、気軽に先生に相談できる。	A	A	降園時に直接、あるいは電話で相談を受けている。要望があれば副園長が相談を受けている。 今年度も大学の先生による教育相談日を毎学期設けたが、保護者の希望は3学期に1名のみであった。教育相談日には職員が相談した。
15	保護者アンケート 育友会の組織や活動についての説明はわかりやすい。	A	A	育友会・後援会の組織自体がわかりにくいと思われる。図式化したりして工夫している。
16	保護者アンケート 保育参加などの園行事への参加チャンスは充分用意されている。	A	A	保育参加・保育アシスタント・遠足のアシスタント等、呼びかけている。積極的に手をあげてアシスタントをしてくださっている。
17	保護者アンケート 未就園児親子保育参加「小さい子が来る日」は有意義なことだと感じる。	A	A	今年度は9回開いた。全体の人数はのべ115組であった。人形劇団「トロッコ」の人形劇の日に「小さい子が来る日」を行った。25組の参加があった。運動会に小さい子が走って、ゴールで年長児がおみやげを渡す競技も、昨年引き続き行った。
18	保護者アンケート 「育友会預かりの時間」は続けた方がよいと思う。	A	A	とても好評なので続けたい。附中や公立小も対象にして欲しいとの意見もあるが、そこまではできないでいる。
大学・他附属との連携				
19	重点目標		A	

	午前中保育の日に、交替で附小の授業を参観に行き、卒園生の小学校での様子を見、幼小連携につなげる。			6日間、のべ11名が附属小の授業や給食の様子を見に行った。運動会やフリー参観デーにも参加した。卒園生が進学した公立小のわくわく学校訪問・運動会・フリー参観デーも7日間のべ9名が参観した。
20	重点目標 九附連幼稚園部会を今年、佐賀で開催する。学びの多い、充実した会になるように、みんなで協力する。		A	みんなでアイデアを出し合い、力を合わせて、スムーズに開催することができた。学びの多い会だったと好評であった。
21	保護者アンケート 園は附属小学校とよく連携が取れている。	A	A	今年度も入学前に1人1人のポートフォリオを使っての引き継ぎの場を持ち、幼小連絡会を計3回行った。附小の栄養教諭が年長児に食べ物のゲーム大会を開いてくれた。年長組親子の給食試食会も、無理だろうと言われていたが、育友会会長もお願いして下さり、工夫して開いてくださった。プール交流・歯みがき交流も続けている。 今までずっとこの項目は評価が低かったが、育友会預かりの時間を始めてから評価が上がった。
エコアクション				
22	重点目標 子ども達に対しては、将来自然を大切に出来るよう五感を通して自然に触れる体験ができる場をたくさん用意する。職員・保護者は、電気・水・紙の使用量を極力減らし、その後ろ姿を子ども達に見せる。		A	水・土・虫・花・魚・火など、おいに自然と触れ合って遊べた。 紙ゴミの分別・紙の無駄遣いの指導、保育室を出る時には電気やエアコンを消すように心がけている。気が付いて消してくれる園児もいる。
23	保護者アンケート 園はエコ活動に力を入れている。	B	A	アルミ缶を集めて附属特別支援学校に持参したり、ペットボトルのふたを回収して大学に持参したりしているが、この項目だけ評価が低く、次年度はどんな取り組みをすればいいか募集する予定。

園児について				
24	幼稚園に行くのを喜んでいる。	A	A	おおむね喜んでいるようだ。

25	友達と遊ぶのが嬉しいようだ。	A	A	もめたり、葛藤したりすることも含めて友達とのかかわりを深めていると感じる。
26	体力がついた。	A	A	個人差があるようだ。今年も学級閉鎖はしなくてすんだ。
27	自分に自信を持って、いろいろなことに積極的に取り組む。	A	A	クラスでの活動の時に保育室になかなか入れない園児もいるが、時間をかけて見守りたい。
28	自分の気持ちを気軽に話す。	A	A	随分、自分を表現できる人が増えてきた。言葉ではまだ難しい人もいるので、引き続き見守りたい。
29	まわりの大人や家族・友達の話聞くようになった。	A	A	もめた時には話し合いの場を設けて、お互いの話が聞けるように努力している。
30	絵本やおはなしに興味を示す。	A	A	劇や絵本が始まると静かに集中して見る園児が多い。
31	歌ったり、音を鳴らしたり、音楽に合わせて踊ったりする。	A	A	ゆうぎ室の舞台で曲をかけて踊ったり闘ったりして、お客さんに見てもらうのを楽しみにしている子がたくさんいる。空き箱でギターなどを作る園児もいた。
32	絵を描いたり、何か作ったりする。	A	A	園庭で大胆に「火事ごっこ」と名付けたえのぐ遊びをしたり、ダンボール箱で動物を作ったりした。運動会の飾りに使うため、大きな紙に絵を描いたりもした。
33	土・泥・水などで喜んで遊ぶ。	A	A	暑い時はもちろんのこと裸足・下着になって、寒い時も少し暖かくなると裸足で、砂場で川工事をする姿が見られた。サラ粉作りも盛んであった。

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	今年度の保護者アンケートは全 24 項目のうち、B (80 % -89 %) が 1 つだけで、後は全部 A (90 % 以上) であった。高い評価をもらえて、とても嬉しい。 「エコに力を入れている」のみが B なので、何か新たな方策がないか保護者に案を募集したい。

6. 今後取り組むべき課題

3 歳児クラスの定員を増やす

現在の定員は、3歳児 20名・4歳児 35名・5歳児 35名である。

3歳児で 20名入園し、4歳児で 32名になるように募集している。(他県の附属幼稚園から転入があるかもしれないので、3名少なく募集している)

しかし、近年は 4歳児で応募する人がめっきり減った。(今年度の卒園児は 3歳で 20名がふたり減って 18名となり、4歳児の募集を 3次募集までしたが 6名しか応募がなく、24名のクラスだった。29年度は、3歳児 20名、4歳児 30名・5歳児 29名)

今年の保護者アンケートには以下の文章があった。

「2年間附属幼稚園でお世話になりましたが、3年間通わせてやりたかったというのが率直な気持ちです」

「2年間大変お世話になりました。1年他の幼稚園に通い、慣れてきた頃の転園で娘の気持ちも複雑で頑張ろうと思っていた私も、何をしていたかわからず、下の子もいたので、周りのお母様方や先生方に支えてもらったさくら組でした。

まつ組になると、まだ 2年目なのに、何もかもこれで最後だねと進んで行く色々な行事。最後まで、もも組さんから入園したかったなと思っています」

3歳児は 20名以上の応募があるので、3歳児の定員を 24名か 26名にしたいと考えている。3歳児の定員を増やすよう、学部により強く要求していきたい。

保育を専門とする教員を管理職に

平成 28年度、学部改組に伴い、附属学校園の副校長制度が廃止された。附属幼稚園には県から小学校の校長格の人が園長として来て、教頭は担任を持つという。

しかし、庄籠が定年を迎える平成 29年度までは、園長は統括校長が兼務し、副園長を残すということであるので、今年度は今までとあまり変わらなかった。園行事や県の国公立幼稚園の園長会などにおいて、園長代理を副園長が勤めることが増えたのが大きな変化かと思うが、保護者にはあまり見えなかっただろう。そのため、今回の保護者アンケートにも

・新体制で何が変化したのか分からない。
という意見が書かれていた。

・平成 30年以降の体制で、現時点でどのように話が進んでいるのか聞いてみたい気がします。
と書いた方もあった。

問題は、平成 30年度からである。

幼児教育と小学校以上の教育は違う。県に幼稚園があり幼児教育を専門とする園長が来るなら県との交流人事で構わないが、小学校の先生が来ては、幼児教育が変質してしまう。

新体制の説明をした昨年度の保護者アンケートでも、何人もから不安の声があがっていた。

・担任を持った先生が教頭を兼務されるとなると、子ども達に充分かわられるのかや、先生の負担が多すぎて保育ができないのでは…とさせていただきます。現在の附属幼稚園の人を育てる保育方針がこの先も存続する事を望みます。

・貴園の自由保育の環境の中で、遊びの中で学び、お友達とも折り合いをつけながらコミ

コミュニケーションを学べた事は大変よかったです。本当に附属幼稚園に通えてよかったと感謝しております。今のまま、この保育方針がずっと続いて欲しいと心より思います。平成30年以降の新体制では今のままの保育が可能なのか、とても不安です。難しいのではないのでしょうか？

・副園長先生がいない体制での幼稚園はとても心配です。今でも忙しそうなお先生方が、他の仕事も増えてしまうと、子ども達と向き合う時間がなくなるのではないのでしょうか？いつも先生方に支えられて子ども達の個性に合わせた対応に安心して通えていただけに不安になります。

副園長制度がなくなる話が出た時から、何度も学部に要望してきたが、先日確かめると、県から園長を連れてくることで話が進んでいるという。

小・中・特別支援には、同じ職種の先生が来るからいいが、幼稚園だけは別だと考えて欲しい。

今、本園の保育は、保護者からもこんなに高い評価を得ている。

学部改組によって幼少連携コースができた。「九州の幼児教育は佐賀大」と言われるように、ここは本園の保育を守る踏ん張りどころだと考えている。

7. 学校評議員会を開いて

3月28日に学校評議員会を開いた。

保護者アンケート・自己評価の高い結果にみなさん安心された。

以下のような意見が出た。

- ・附属幼稚園はいいが、公立幼稚園の減少を大変危惧している。
- ・非常勤職員を常勤にすることはできないのか。
- ・「質のいい保育を！」と言われる。「質」をどう考えるかが問題。まず安心・安定が大切で、その上に遊び込むこと・主体性などが大切。何か目に見えることができるようになることではなく、人格形成・心を育てることが幼児教育の一番重要な部分ではないか。そんな考え方をきちんとふまえた保育をしている附属幼稚園にますます期待しているし、附属幼稚園の保育をもっと発信して欲しい。
- ・附属幼稚園では、非常勤を含めた先生達が子ども達のことを率直に話し合えることが素晴らしいと思う。
- ・学校教育に携わっていた立場から、幼児教育の大切さを改めて感じている。幼児教育にしかできないことがあることがわかった。附属幼稚園に期待している。附属だからこそその幼少連携にも期待している。
- ・2月の公開保育研究会の時、九州各県の附属幼稚園の先生達がたくさん学びに来ていて、話を聞くと、佐賀の附属幼稚園をととても頼りにしているのがわかった。
- ・卒園生を見ていると、学年を超えて、お互いに名前も知っているし、つながりがあり、卒園後もとても仲がいい。この伝統を大切にしたい。